



# LISZT FRIENDS

特定非営利活動法人 リスト音楽院友の会 会報  
No. 11

2013年 10月 25日発行  
発行元:

特定非営利活動法人 リスト音楽院友の会

〒500-8879 岐阜市徹明通1丁目9番地  
TEL 058-264-1501 FAX 058-262-8011  
E-mail: kota@lisztfriends.com  
URL: http://www.lisztfriends.com

## NPO法人設立6周年を振り返って



本会は2007年にNPO法人となりました。それ以来、監事の役職を務めさせていただいております。私は本職が公認会計士ですので、財務状況を監査するのは慣れておりますが、小規模とはいえNPO法人、その計算書類は毎年岐阜県に提出する必要がある、なおざりにはできません。また理事の業務執行状況を監査するのも役目であり、理事会には毎回出席しております。クラシックのコンサートは来場者がさほど多くはなく、会の財務は健全とは言えませんが、会員の皆様のお力を得て、今後一層の発展を望んでおります。

NPO法人 リスト音楽院友の会  
監事 奥住 信治

## 2013年度通常総会議事録 (抜粋)

日時：2013年9月15日 午後1時00分～午後1時30分 場所：岐阜市文化センター  
出席者：正会員総数62名。出席者24名（うち表決委任者18名）。

議事の経過の概要及び議決の結果：

- (1) 理事太田功正が本日の総会は定足数を満たして有効に成立している旨を述べ、開会を宣言した。
- (2) 議長に会長・矢島潤一郎が全会一致で選出された。
- (3) 議長より、議事録署名人に佐部利弦と太田功正を選任したいとの提案があり、承認された。
- (4) 矢島潤一郎会長より、平成24年度の事業報告並びに収支決算について報告があり、太田事務局長より説明があった。監事の奥住信治より監査報告の後、全会一致で承認された。
- (5) 矢島会長より役員を選出について提案があり、理事に矢島潤一郎、古川展生、横森俊雄、太田功正、浅野諭、新井康之、佐部利弦、監事に奥住信治の各氏を再任、また安田洋一郎氏が理事を辞任する旨、報告された。理事のうち矢島潤一郎が会長に、古川展生が副会長に、太田功正氏が事務局長に選ばれた（全員再任）。役員報酬については、「なし」とした。なお、任期は平成25年4月1日より平成26年3月31日までの1年間である。
- (6) 矢島会長より、平成25年度の事業計画並びに収支予算の提案があり、太田事務局長より説明があった。全会一致で承認された。
- (7) 太田事務局長よりNPO法人会計基準に準拠し、適切な語句に改めるため、定款第18、23、39、44、45、46、48、51条を変更したい旨、提案があり、全会一致で承認された。

## 2012年度主催コンサート終了報告

### 豊永美恵・原田綾子デュオコンサート

2013年2月2日(土) 19時開演

電気文化会館・ザ・コンサートホール (名古屋市伏見)

出演：豊永美恵(クラリネット)、原田綾子(ピアノ)

曲目：ルトスワフスキー：ダンス・プレリュード

ドビュッシー：ピアノのために

ヒダシュ：ソナタ

リスト：バラード 第2番 □短調

ブラームス：クラリネットソナタ 第2番 変ホ長調

作品120-2



2012年度2回目の主催コンサートは、今年2月2日に開催いたしました。今回はクラリネットの登場。奏者は豊永美恵さんです。ピアノは3度目のご出演、名古屋・春日井市在住の原田綾子さんです。豊永さんは、名古屋音楽大学をご卒業後、2002～2008年、リスト音楽院に留学。帰国後は全国で演奏活動をされ、ハンガリーとの架け橋的役割をされています。原田さんは、名古屋市民芸術祭審査員特別賞、名古屋ペンクラブ賞受賞など、名古屋の若手ピアノ演奏家として著名です。このお二人による共演は、とても聴きごたえのある演奏でした。とくにヒダシュのクラリネット・ソナタはハンガリーの雰囲気がとてもよく感じられる名演でした。



## 古川展生・岡ひとみ デュオリサイタル

2013年3月16日(土) 14時開演  
 秋篠音楽堂(奈良市)  
 出演:古川展生(チェロ)、岡ひとみ(ピアノ)

曲目:バッハ:無伴奏チェロ組曲第1番ト長調 BWV1007  
 グリンカ=バラキレフ:ひばり  
 ショパン=グラスノフ:エチュード  
 フォーレ:パピヨン  
 ショパン:チェロ・ソナタ ト短調 作品65  
 ピアソラ:アディオス・ノニーノ  
 ピアソラ:リベルタンゴ

「リスト音楽院友の会プレゼンツ ピアニストフューチャリングシリーズ」と題された、古川氏と地元ピアニストが共演するシリーズです。その第1弾が、奈良市の秋篠音楽堂で開催されました。ピアニストは奈良・生駒市在住の岡ひとみさんです。後半は、ショパンのチェロ・ソナタの後、ピアソラの2曲でした。さすがにピアソラのCDをリリースしているだけあって、タンゴのリズムが心地よく、クラシックのみならず様々なジャンルの音楽に取り組んでいる姿勢は素晴らしいと感じました。



## 古川展生・桑原怜子 デュオリサイタル

2013年3月17日(日) 14時開演  
 京都府中丹文化会館(京都府綾部市)  
 出演:古川展生(チェロ)、桑原怜子(ピアノ)

曲目:バッハ:無伴奏チェロ組曲第1番ト長調 BWV 1007  
 クララ・シューマン:ロマンス イ短調  
 バッハ=ブゾーニ:シャコンヌ  
 ショパン:チェロ・ソナタ ト短調 作品65  
 ピアソラ:アディオス・ノニーノ  
 ピアソラ:リベルタンゴ

奈良から京都の北部(綾部市)に移動、翌日は「ピアニストフューチャリングシリーズ」の第2弾、桑原怜子さんとの共演です。曲目は前半のピアノソロが違います。得意としているピアノ曲の演奏です。バッハ=ブゾーニのシャコンヌは、よく聴く曲ですが、女性らしい感性あふれる演奏でした。冒頭のバッハ無伴奏1番は、前日も聴いたのですが、何回聴いても飽きない名曲・名演奏です。



## HMZが贈る3つの協奏曲 in 名古屋

2013年3月25日(日)  
 名古屋カワイホール(名古屋市)  
 出演:金澤亜希子(ピアノ)、近江秀崇(ピアノ)、新井彩香(ピアノ)

曲目:リスト:死の舞踏 S.126  
 ドホナーニ:「きらきら星」の主題による変奏曲 Op.25  
 バルトーク:ピアノ協奏曲 第3番 Sz.119  
 リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S.124

リスト音楽院同期で「HMZ」と名付けられた3人のピアニスト。いつもは東京でコンサート活動をされていますが、今回名古屋にきていただきました。2台のピアノの音が会場中に響きわたりました。





## 2013年度主催コンサート終了報告

### 古川展生・廣田俊司 デュオリサイタル

2013年7月6日(土) 14時開演  
飛騨・世界生活文化センター(飛騨芸術堂)  
出演:古川展生(チェロ)、廣田俊司(ピアノ)

曲目:バルトーク:ルーマニアン舞曲  
リスト:ハンガリー狂詩曲  
バッハ:無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007  
ドビュッシー:チェロソナタ  
ホッパー:ハンガリー狂詩曲  
カプースチン:ワルツ風に、悲歌、ブルレスク  
カプースチン:変奏曲  
ピアソラ:タンティアンニプリマ、リベルタンゴ

「リスト音楽院友の会プレゼンツ ピアニストフューチャリングシリーズ」の第3弾は高山市出身で韓国在住の廣田俊司さんとの共演です。会場は高山市にあるとても立派な施設、世界生活文化センターの中にある飛騨芸術堂です。今回もバッハとピアノは同じですが、興味深いのは、現代作曲のプースチンです。チェロとピアノの3曲、ピアノソロの1曲、いずれも初めて聴く曲で、興味深いものがありました。限りなくジャズに近いクラシック音楽でした。



### リスト音楽院フェスティバル2013 トリオ・プリマヴェーラ

2013年9月15日(日) 14時開演  
岐阜市文化センター  
出演:波多野有紀(ヴァイオリン)、佐部利弦(ピアノ)、  
新井康之(チェロ)

曲目:エルガー:愛の挨拶  
クライスラー:愛の喜び  
モリコーネ:ニューシネマパラダイス  
ハーライン:星に願いを  
ピアソラ:ブエノスアイレスの夏  
グノー:アヴェマリア  
バッハ=ブゾーニ:シャコンヌ  
冬野ユミ:NHKドラマ「父の花、咲く春~岐阜・長良川  
間物語」より花の章  
トゥリーナ:[シルクロ]ピアノとヴァイオリンと  
チェロのための幻想曲~環~  
メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番より  
第3、4楽章

毎年夏、8月に開催している「リスト音楽院フェスティバル」シリーズ。今年は9月になりました。会場も、いままで使ったことがなく、事務局に近い岐阜市文化センターです。今回は、岐阜市在住の佐部利弦さん、波多野有紀さん、そして名古屋市在住の新井康弘さんです。この3人は「トリオ・プリマヴェーラ」と名付けたトリオを結成、演奏活動をされています。

コンサートは「愛の挨拶」から始まりました。「心に優しいさわやかコンサート」と副題にあるように、親しみやすい曲がトリオの演奏で続いた後、佐部利さんのソロでシャコンヌ。力強いピアノの響きでした。後半は新井さんが実際にNHKのドラマで演奏した、「花の章」。このコンサートのためにピアノとチェロのデュオ曲に作曲家自身が編曲したとのこと。最後はメントリ1番。トリオ・プリマヴェーラの真髓が発揮されました。



10月に入り、ハンガリーは落ち葉が多く見られるようになり、朝夕はコートが必要になりました。でも、青空は澄んでとても綺麗です。

今月22日、フランツ・リストの生誕日にいよいよリスト音楽院の本校舎がリニューアルオープンします。現在、週末返上で改修工事の最終段階が行われています。2009年に閉鎖されてから随分と時間がかかりましたが、その間ブダペストの音楽環境は大きく変わりました。

音楽院の授業はヴェシェレー二通りの新校舎で行われるようになりました。この新校舎は最新設備が整っていて、もちろん冷房も完備。レッスン室の内装は新しく、入館には専用の電子カードが必要で、関係者以外は安易に内部に立ち入れないようになりました。練習室はインターネットで予約し深夜0時まで練習が可能です。本校舎の時は、学校で練習をしたくても、レッスン室が空くまで受付の前で長時間順番待ちをしなければなりませんでした。今はその必要もなくなりました。一方、これまでブダペストのコンサートの中心地であった音楽院大ホールが使えない分、主要なコンサートはドナウ下流にある MUPA 国立ホールで行われるようになりました。

本校舎が閉鎖された当時、音響と雰囲気の良い築100年以上の歴史ある大ホールが使えなくなり、ハンガリーの音楽の魂をぬかれたような気がしていました。MUPA 国立ホールは、なんだかこの国には現代的すぎて大きすぎて、ある種の居心地の悪さが拭えませんでした。しかし不思議なもので、日が経つにつれその規模にも慣れ、演奏者も観客もようやくホールに馴染んできたかなという今日です。

そして、ドナウ川沿いにもう一つ“BMC” (Budapest Music Center) というホールも今年オープンしました。洗練された様相のこのホールは、現代音楽や中規模のコンサート、そして音楽研究の場として使われていて、ブダペストの主要音楽ホールの一つとして頻繁にコンサートが開かれるようになりました。

ヨーロッパの中でも歴史ある建物が多く残り、古き良き文化を愛するハンガリーに、少しずつ新しい要素が入ってきて、ゆっくりと確実に浸透しているのを感じます。そんな中、満を持してリスト音楽院の本校舎が戻ってきます。22日、リニューアルオープンのガラコンサートが大ホールで盛大に開催され、その後、著名なゲストによるコンサートが続きます。



改修工事最終段階のリスト音楽院本校舎

これからは、コンサートはリスト音楽院大ホール、MUPA 国立ホール、BMC、授業は本校舎、ヴェシェレー二通りの新校舎、リスト記念館のある旧音楽院を中心に行われるようになります。また、オペラの方も数年前から改修工事を進めていたエルケル劇場が正式に再開され、オペラ座と共に公演が始まりました。ブダペストの音楽環境が充実し、今後どのような可能性が広がるのか今から非常に楽しみです。



Budapest Music Center ホール内部



ヴェシェレー二通りの新校舎